



# 院内がん登録による生存率集計

国立研究開発法人 国立がん研究センター  
がん対策情報センターがん登録センター

がん情報サービス ganjoho.jp  **がん登録・統計** [サイトマップ](#) [お問い合わせ](#)

**がん登録** | **統計** | **がん対策**

**統計**

HOME > 統計 > 報告書・冊子 > がん診療連携拠点病院院内がん登録生存率集計

→ 集計表のダウンロード

→ **がん統計**

→ 報告書・冊子

- 全国がん罹患モニタリング集計
- がん診療連携拠点病院等院内がん登録全国集計
- がん診療連携拠点病院院内がん登録生存率集計**

**がん診療連携拠点病院院内がん登録生存率集計**

更新日：2015年11月06日 [ [更新履歴](#) ]

1. 2007年生存率報告書について

全国のがん診療連携拠点病院において、5年を経過した時の**相対生存率** [\(用語\)](#) を施設所在地の都道府県別に集計したものです。

## 院内がん登録による生存率集計

### ▶ 3年生存率の公表の意義

国民が、科学的根拠に基づく情報を迅速に提供するため、5年生存率より早い段階での生存率についての情報提供

### ▶ 2カ年データでの5年生存率の公表の意義

生存率は、対象数が少ない場合は偏りが生じる。本集計では、集計対象数を確保するため2009年、2010年診断例を合算し集計。

### ▶ 施設別生存率の公表の意義

今回の生存率は、依然病院間の単純な比較には適さないが、がん医療の透明性を確保し、より良い医療を提供するため、各施設が提供した医療の現状を把握し、自施設の情報を加味して質の向上を検討する契機

### ▶ 国民の皆様へ

病院の特徴を知り、受診の際の参考とすることができる。

### ▶ 今後の発展性

今後、更にデータが蓄積するため、より意義のある集計を行い、がん医療の透明性の確保や医療の質の向上を目指す。



## 院内がん登録の位置づけ-1

平成28年1月1日施行

### ▶がん登録等の推進に関する法律第四十四条第一項

専門的ながん医療の提供を行う病院、その他の地域におけるがん医療の確保について重要な役割を担う病院の開設者及び管理者は、厚生労働大臣が定める指針に即して院内がん登録を実施するよう努めるものとする

平成27年12月15日公布

### ▶院内がん登録の実施に係る指針(厚生労働省告示第四百七十号)

院内がん登録とは、  
「**病院において、がん医療の状況を適確に把握するため、**  
当該病院におけるがん患者について、  
全国がん登録情報よりも詳細な治療の状況を含む情報を収集し、  
院内がん登録データベースに記録し、及び保存すること」

## 院内がん登録の位置づけ-2

平成27年12月15日公布

### ▶ 院内がん登録の実施に係る指針(厚生労働省告示第四百七十号)

院内がん登録データベースの活用により、以下の効果が期待される

1. 病院において、当該病院において診療が行われたがんの罹(り)患、診療、転帰等の情報を適確に把握し、治療の結果等を評価すること及び他の病院における評価と比較することにより、がん医療の質の向上が図られること
2. 国立研究開発法人国立がん研究センターにおいて、院内がん情報等を全国規模で収集し、当該情報を基にしたがん統計等の算出等を行うことにより、専門的ながん医療を提供する医療機関の実態把握に資すること
3. 病院や国立がん研究センターにおいて、院内がん情報等を適切に公表することにより、がん患者及びその家族等の医療機関の選択等に資すること
4. 行政において、前号に基づき公表された院内がん情報を活用し、がん対策の企画立案やがん医療の分析及び評価を行うことにより、がん対策の充実が図られること

# 生存率の統計について

	全国がんセンター協議会	院内がん登録	地域がん登録	全国がん登録
集計対象	全国のがん専門診療施設32施設	全国のがん診療連携拠点病院約300施設	全国47都道府県内の全医療施設	全国47都道府県内の全病院及び指定された診療所
集計目的	がん登録集計の先駆的取り組みを研究的に実施	がん診療連携拠点病院における患者の平均的な予後の提示	国及び都道府県のがん対策への活用	国及び都道府県のがん対策への活用
集計開始対象年	1997年	2007年	1951年(罹患集計)	2016年
最新集計				
5年相対生存率	2008-2010年診断 胃74.9% (約2万3千例) 大腸76.6% (約1万5千例)	2008-09年診断 胃71.1% (約7万5千例) 大腸72.9% (約6万)	2006-2008年診断 胃64.6% (約10万9千例) 大腸71.1% (約10万3千例)	未集計
10年相対生存率	2002-2005年診断 胃64.2% (約1万例) 大腸66.4% (約7千例)	未集計	未集計 (都道府県単位ではあり。例:大阪府)	未集計

# 集計値公表の目標

## 1. 治療結果の振り返り

- 医療施設が治療結果を振り返ることで、診療実態を把握の上継続的に検討するデータを提供

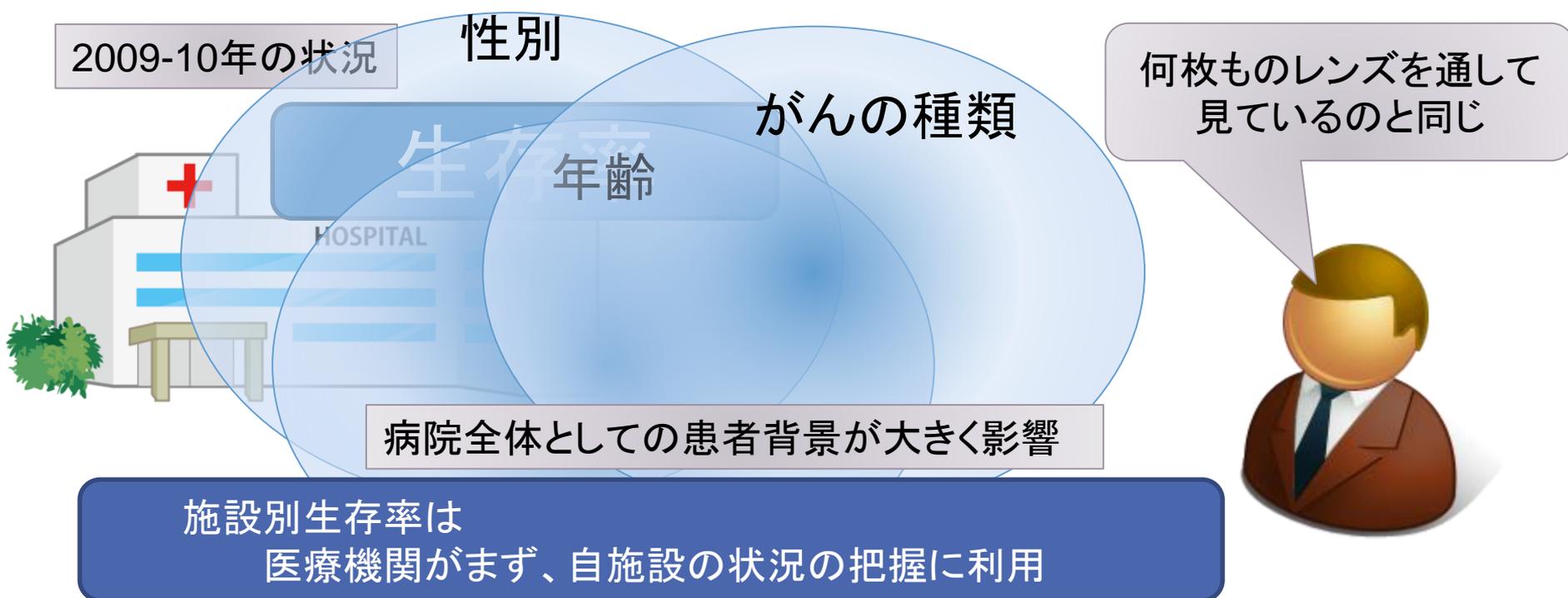
## 2. 情報公開

- がん診療連携拠点病院における治療の透明性の確保
- 社会にがん生存率の解釈における注意点を知ってもらう。
  - 「生存率」≠「治療の善し悪し」
    - 高齢者、併存症が多い施設では、低い値で当然
  - 5年の必然的なタイムラグ
  - 分母の大きさの確保、生存状況把握割合の重要性

# 注意：施設別の生存率を見る上で

「生存率」＝施設の善し悪しではない

- 施設でのがん診療の**多様な状況**を反映した数値
- 拠点病院あるいは他の医療機関が、診療状況把握のきっかけとするもの





# がん診療連携拠点病院等 院内がん登録

## 2012年3年生存率集計報告書

## 2009-10年5年生存率集計報告書

国立研究開発法人 国立がん研究センター  
がん対策情報センター・がん登録センター  
院内がん登録分析室

The screenshot shows the website interface for cancer registration and statistics. At the top left is the logo for 'がん情報サービス ganjoho.jp'. To its right is the text 'がん登録・統計'. On the far right, there are links for 'サイトマップ' and 'お問い合わせ', and a search box with the text '検索'. Below this is a navigation bar with three main sections: 'がん登録', '統計', and 'がん対策'. The '統計' section is currently selected. Underneath, there is a sub-menu with '統計' and three options: '→ 集計表のダウンロード', '→ がん統計', and '→ 報告書・冊子'. The main content area displays the breadcrumb 'HOME > 統計 > 報告書・冊子 > がん診療連携拠点病院院内がん登録生存率集計'. The main heading is 'がん診療連携拠点病院院内がん登録生存率集計', with a sub-heading '更新日：2015年11月06日 [ 更新履歴 ]'. A numbered list starts with '1. 2007年生存率報告書について'. Below this, a paragraph states: '全国のがん診療連携拠点病院において、5年を経過した時の相対生存率(国語版)を施設所在地の都道府県別に集計したものです。'



## がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2012年3年生存率集計 2009-10年5年生存率集計

### ●集計のポイント

- 3年生存率は、がん診療連携拠点病院等院内がん登録データを用いた報告としては、今回2回目
- 2012年院内がん登録データを用いて、5年生存率よりより早い段階での生存率情報を提供
- 新たに、**喉頭、胆嚢、腎、腎盂尿管**の生存率を集計
- 5年生存率は、2009年、2010年の2カ年分を合算し集計
- 各医療機関が、自らの医療の質を見直すきっかけとなるデータを提供すること、国民に情報を公開することで、がん医療の透明性を確保することが目的
- がん診療連携拠点病院等の5年生存率集計として、今回は4回目の報告



# がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2012年3年生存率集計 2009-10年5年生存率集計

## 【調査対象】

- データ提出依頼施設 433施設  
平成29年4月末時点での拠点病院で  
予後支援事業に参加あるいはデータ提出が可能な施設
- 対象データ 2012年(平成24年)診断例  
2010年(平成22年)診断例  
2009年(平成21年)診断例\*(平成28年収集済)
- データ収集期間 平成30年6月11日～7月4日

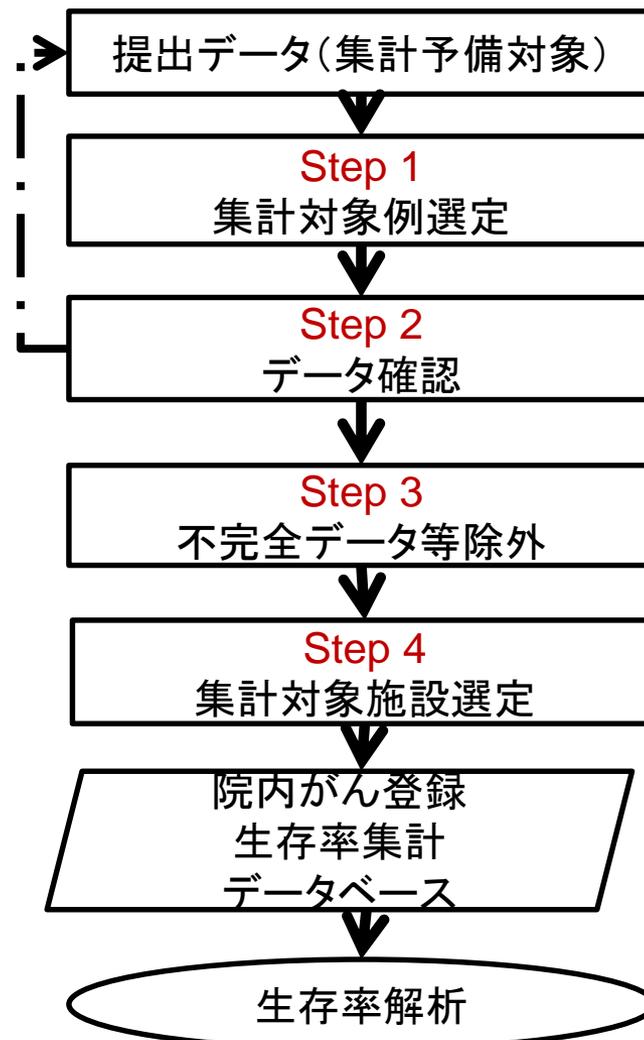
## 【調査結果】

- 収集総数 **2012年診断例 547,618件、349施設**  
(前回 501,862件、330施設)  
**2010年診断例 496,950件、338施設**  
(前回 796,325件(2カ年合算)、315施設)

## がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 生存率集計

### 【生存率集計手順】

- Step1:** 集計対象例の選定  
自施設初回治療例  
悪性新生物〈腫瘍〉  
( \* 脳・中枢神経系良性腫瘍を含む )  
年齢0~99歳
- Step2:** データ確認
- Step3:** 不完全データ除外  
年齢不詳、性別不詳  
臨床病期0期等を除く
- Step4:** 集計対象施設選定  
生存状況把握割合90%以上





## がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 生存率集計

### 【集計対象】

その施設で初回治療を開始した例(症例区分:2, 3)

悪性新生物<腫瘍>(性状コード:/3)(含:脳・中枢神経系良性腫瘍)

年齢 0~99歳

生存状況把握割合:90%以上の施設のデータ

\*5年生存率は2010年診断例で全がん生存状況把握割合90%以上であった施設対象  
うち2009年例の生存状況把握割合が90%以上であった場合はデータを合算

### 【生存率集計項目】 実測生存率と相対生存率

<全体>

主要5部位+食道、膵臓、前立腺、子宮頸部、子宮体部、膀胱を追加  
部位、性、年齢階級、観血的治療実施、UICC TNM分類総合ステージ別

\*5年生存率集計のみ、以下を集計

<都道府県・施設>

部位・病期(がん種)別(施設別は主要5部位のみ)

\*3年生存率集計のみ、喉頭、胆嚢、腎、腎盂尿管を追加

## がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 生存率集計

### ●実測生存率

実際に診療した患者さんの生存割合

死因に関係なく、すべての死亡を計算に含めた生存率

### ●相対生存率

競合する死因(他の病気等による死亡)の影響を取り除いた生存率

⇒がん対策の評価において、がんの影響を見たいときに算出

### <計算方法>

生存率を計算する対象者と同じ特性(性、年齢)を持つ

一般集団の期待生存確率より算出した期待生存率で

実測生存率を割る



## がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 生存率集計

### 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 がん登録部会 生存率公表基準

#### 【全体】

- 全がんの生存状況把握割合が90%以上の施設
- 集計対象が原則30例以上

<以下、5年生存率報告書>

#### 【都道府県】

- **各都道府県からの意見とともに公表**
- 都道府県内で該当施設が1施設の場合非表示

#### 【施設】

- **施設が公表可と判断した施設のみ生存率を公表**
- **施設から、施設別生存率についての意見とともに公表**  
\* 非公表の場合も、施設が非公表理由の公表を希望した場合は提示



# がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2012年3年生存率集計 結果

---

## がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2012年3年生存率集計

	集計対象外施設		集計対象施設		全体	
	63施設	(%)	286施設	(%)	349施設	(%)
全登録数	79,843	100.0	<b>467,775</b>	<b>100.0</b>	547,618	100.0
症例区分(2, 3)	65,221	81.7	<b>378,564</b>	<b>80.9</b>	443,785	81.0
症例区分2, 3のうち						
良性	960	1.5	5,476	1.4	6,436	1.5
良性・悪性の別不詳	320	0.5	2,120	0.6	2,440	0.5
上皮内癌	7,344	11.3	38,904	10.3	46,248	10.4
悪性新生物<腫瘍>	56,597	86.8	332,064	87.7	388,661	87.6
<b>集計対象腫瘍*</b>	57,874	88.7	<b>339,599</b>	<b>89.7</b>	397,473	89.6
症例区分2,3、集計対象腫瘍のうち						
年齢 <b>0～99歳</b>	57,857	100.0	<b>339,498</b>	<b>100.0</b>	397,355	100.0
除外対象	15	0.0	122	0.0	137	0.0
集計対象例	(57,842)		<b>339,376</b>		397,218	

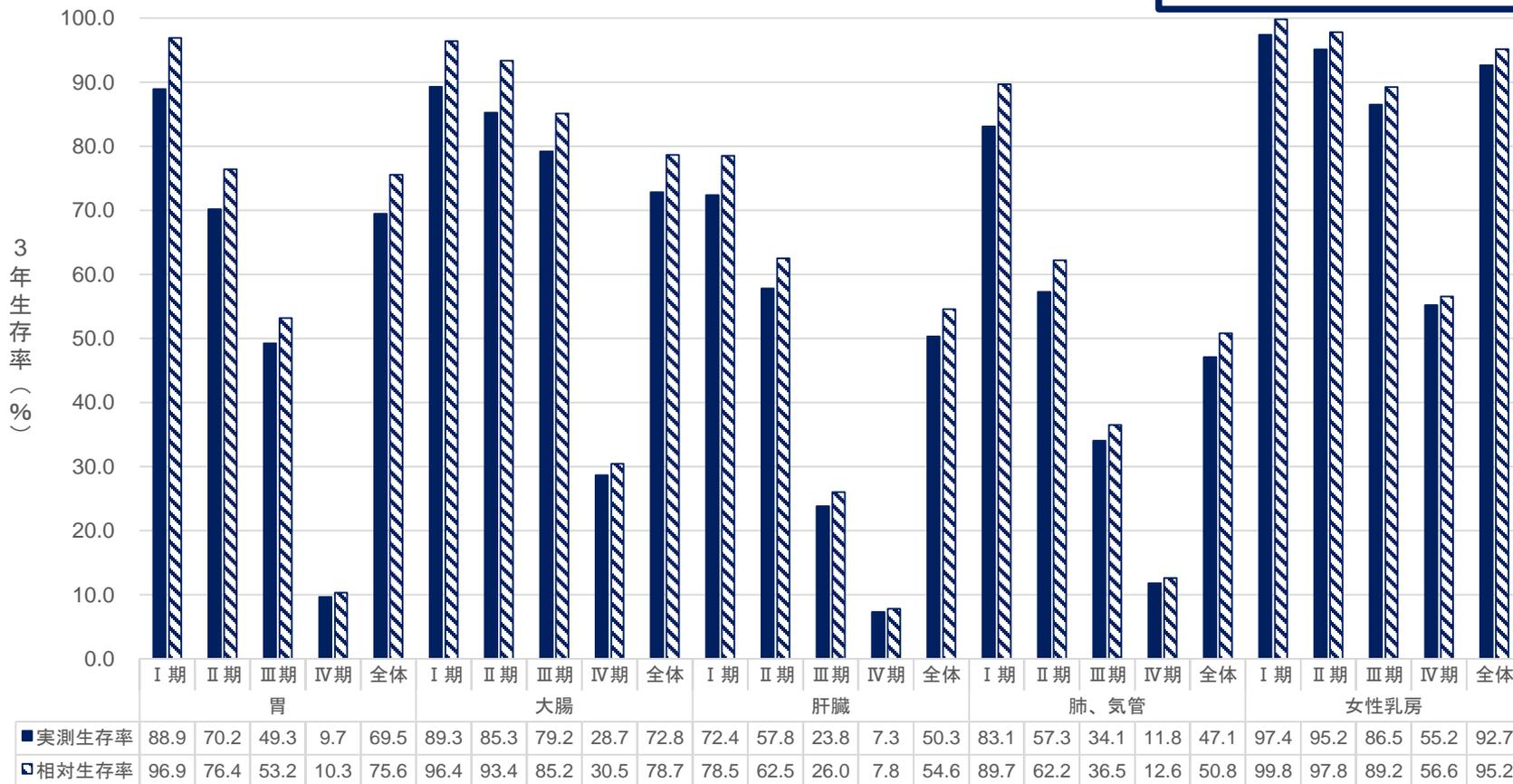
集計対象外施設：生存状況把握割合90%未満  
 (前回 集計対象施設268施設、306,381件)



# がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2012年3年生存率集計

## 主要5部位の病期(がん種)別生存率

全がん  
 実測生存率 67.2%  
 相対生存率 72.1%

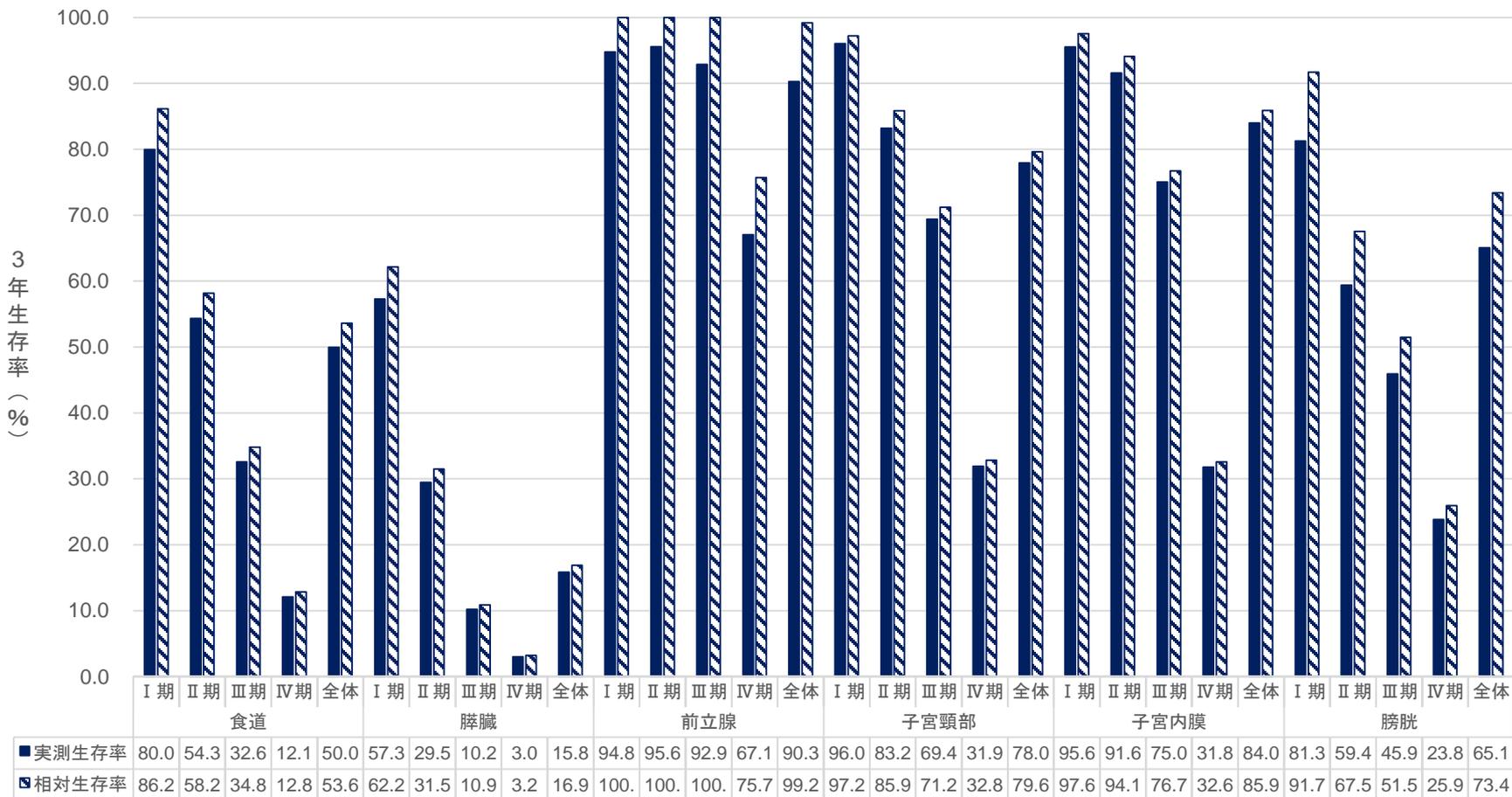


■ 実測生存率    ▨ 相対生存率



# がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2012年3年生存率集計

## その他の部位の病期(がん種)別生存率

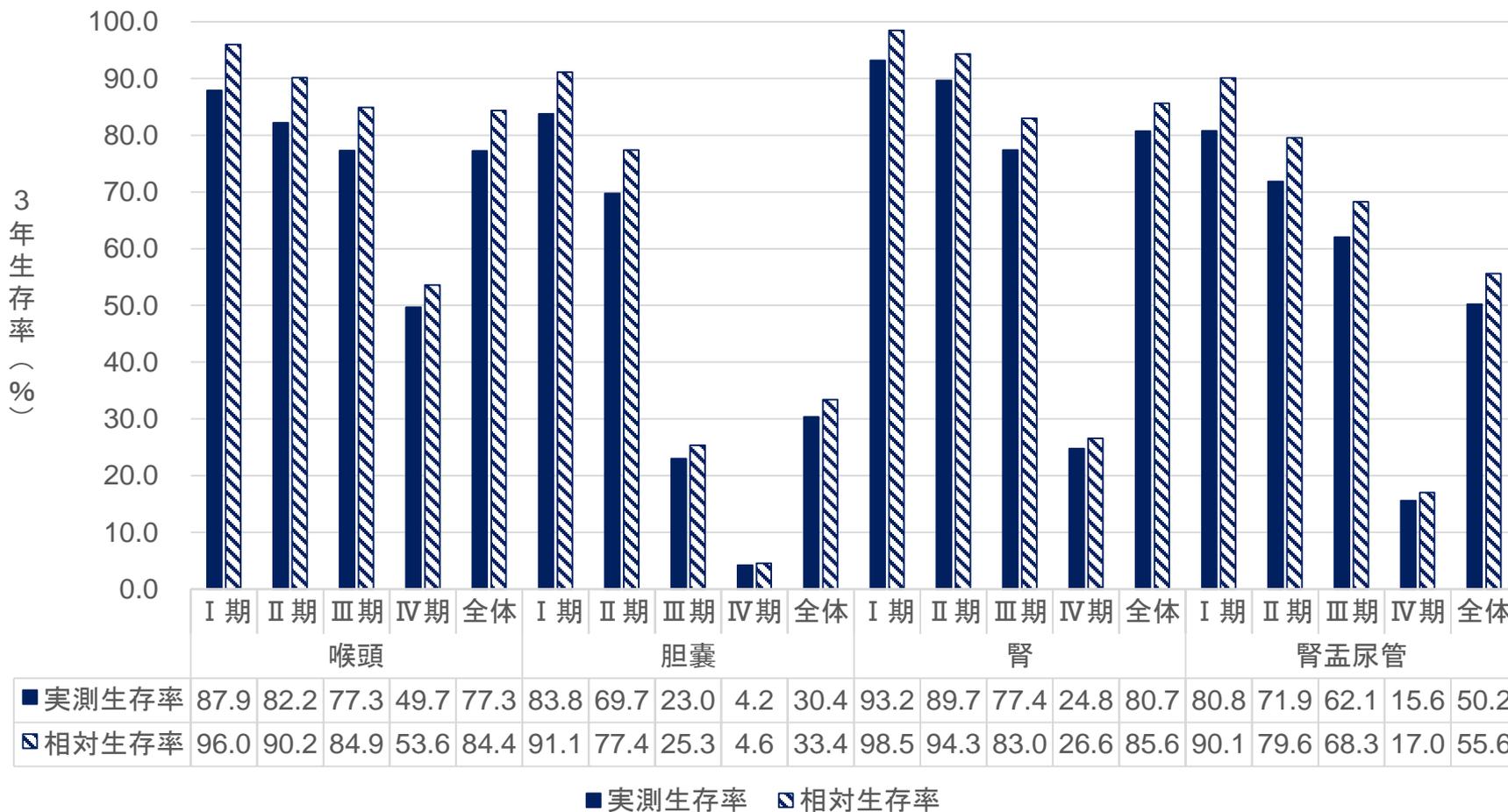


■ 実測生存率 ▨ 相対生存率



# がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2012年3年生存率集計

## その他の部位の病期(がん種)別生存率(新規追加)





# がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2009-10年5年生存率集計 結果（全体）

---



## がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2009-10年5年生存率集計

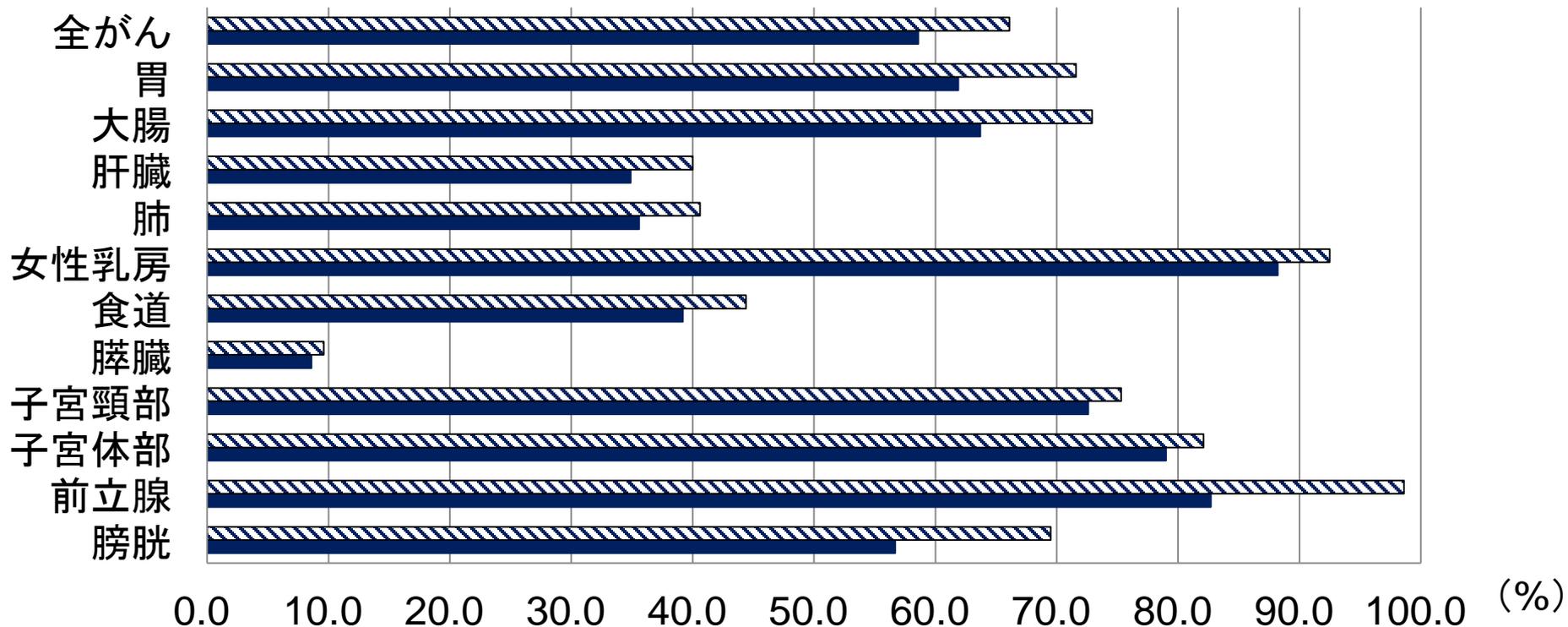
### 2010年診断例

	集計対象外施設		集計対象施設		全体	
	111施設	(%)	277施設	(%)	338施設	(%)
全登録数	74,641	100.0	422,309	100.0	496,950	100.0
症例区分(2, 3)	61,755	82.7	345,407	81.8	407,162	81.9
症例区分2, 3のうち						
良性、良性又は悪性の別不詳	960	1.5	5,799	1.7	6,759	1.7
上皮内癌	5,795	9.4	32,981	9.5	38,776	9.5
悪性新生物<腫瘍>	55,000	89.1	306,627	88.8	361,627	88.8
集計対象腫瘍*	55,960	90.6	312,411	90.4	368,371	90.5
症例区分2,3、集計対象腫瘍のうち						
年齢 0~99歳	55,943	100.0	312,323	100.0	368,266	100.0
除外対象	32	0.1	91	0.0	123	0.0
集計対象例	55,911		312,232		368,143	

集計対象外施設：生存状況把握割合90%未満



# がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2009-10年5年生存率集計

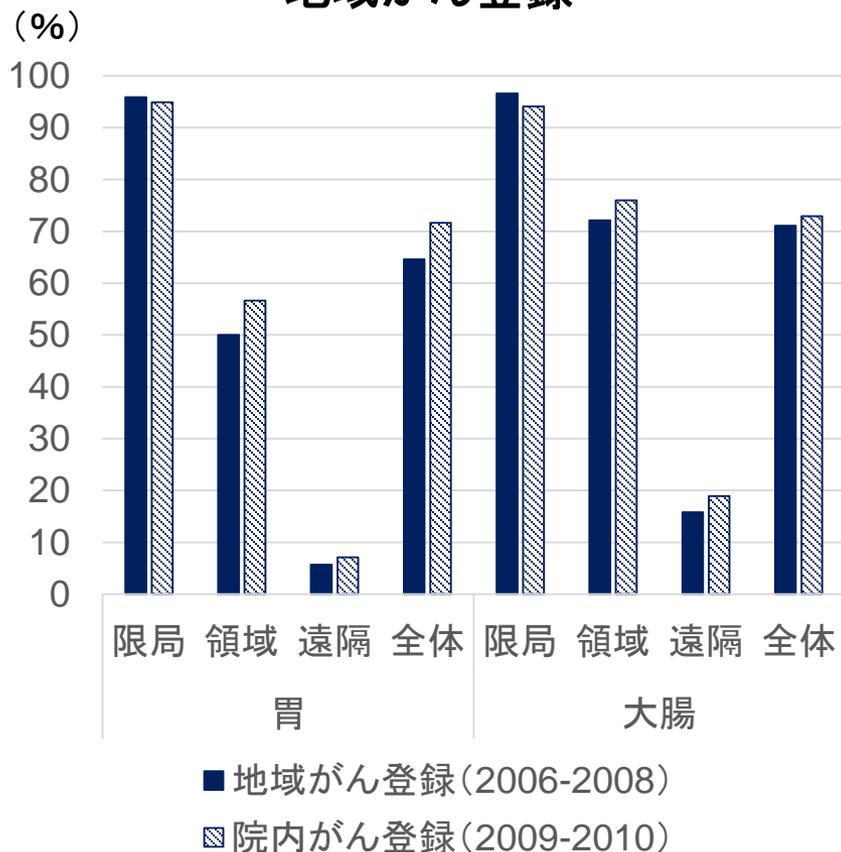


	膀胱	前立腺	子宮体部	子宮頸部	膵臓	食道	女性乳房	肺	肝臓	大腸	胃	全がん
相対	69.5	98.6	82.1	75.3	9.6	44.4	92.5	40.6	40.0	72.9	71.6	66.1
実測	56.7	82.7	79.0	72.6	8.6	39.2	88.2	35.6	34.9	63.7	61.9	58.6

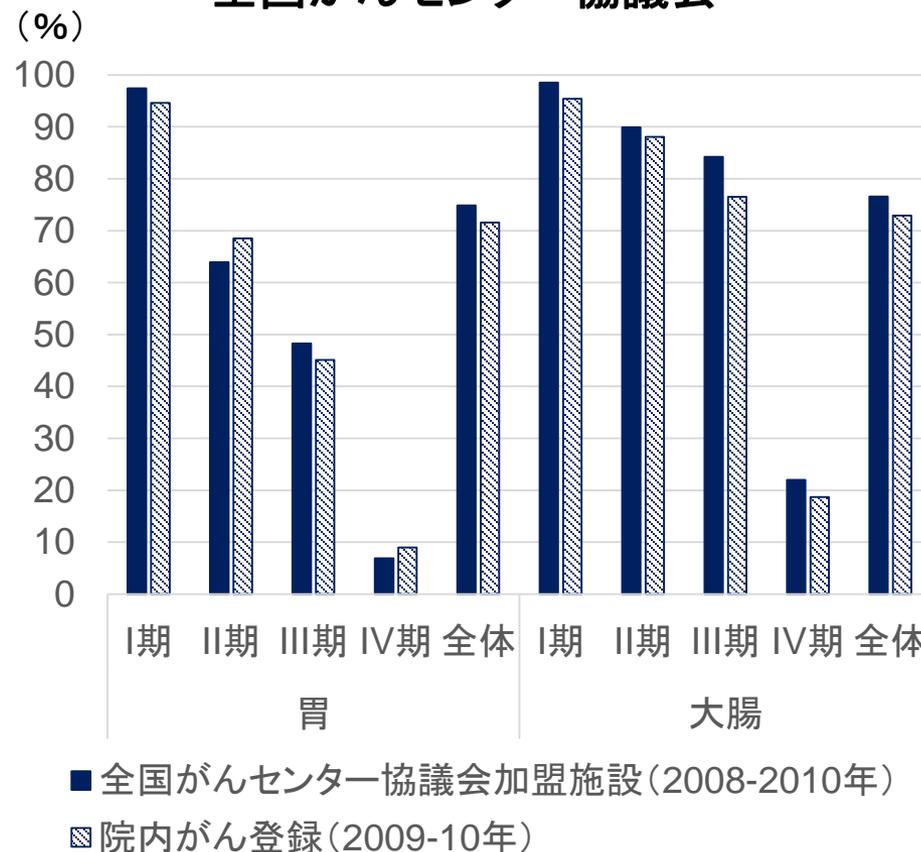
# がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2009-10年5年生存率集計

## 過去の集計(対象が異なるため単純な比較困難)

### 地域がん登録



### 全国がんセンター協議会

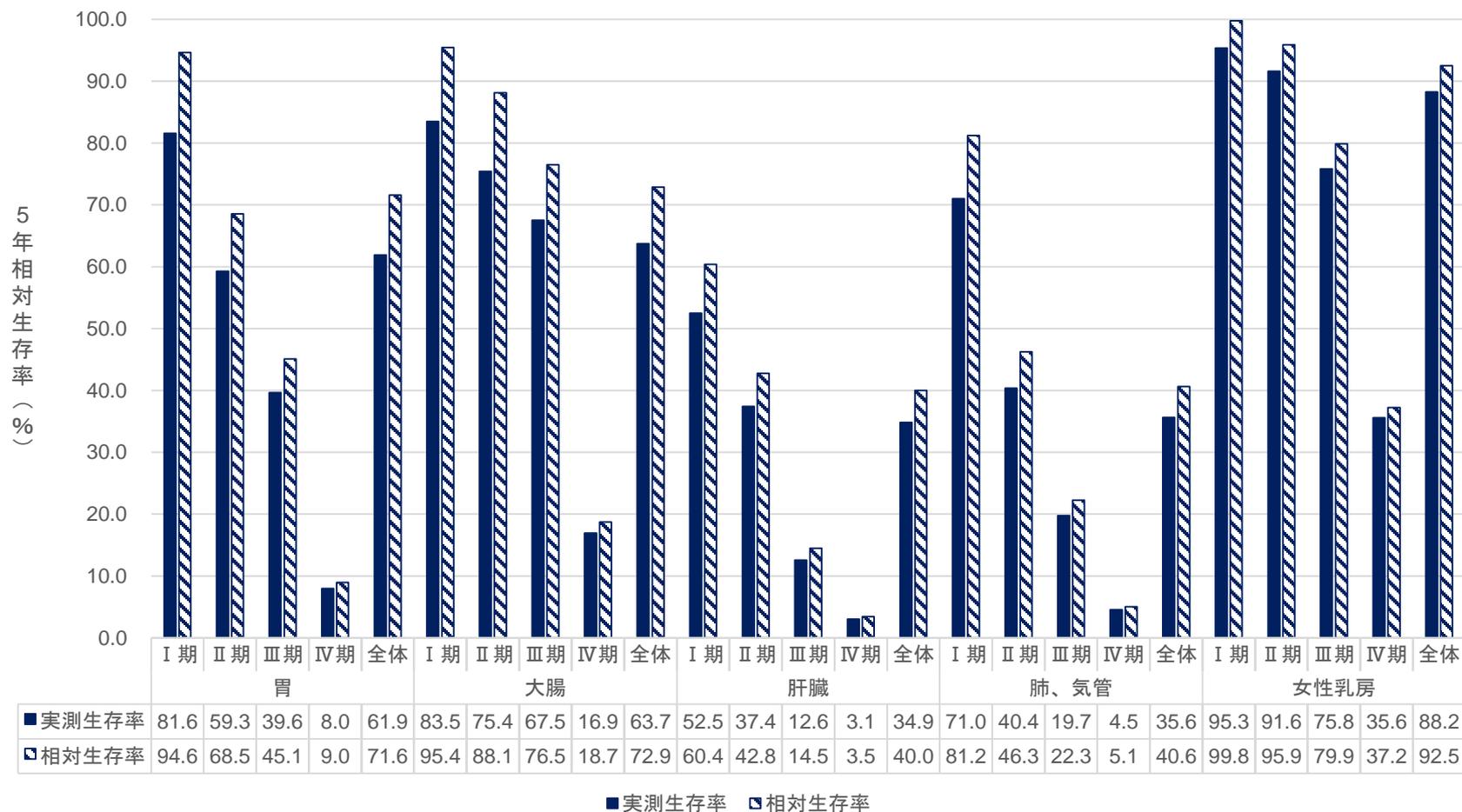


(参考) 既存調査の相対生存率 全がん

地域がん登録 (2006-08) : 62.1%    全がん協 (2008-10) : 67.9%

# がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2009-10年5年生存率集計

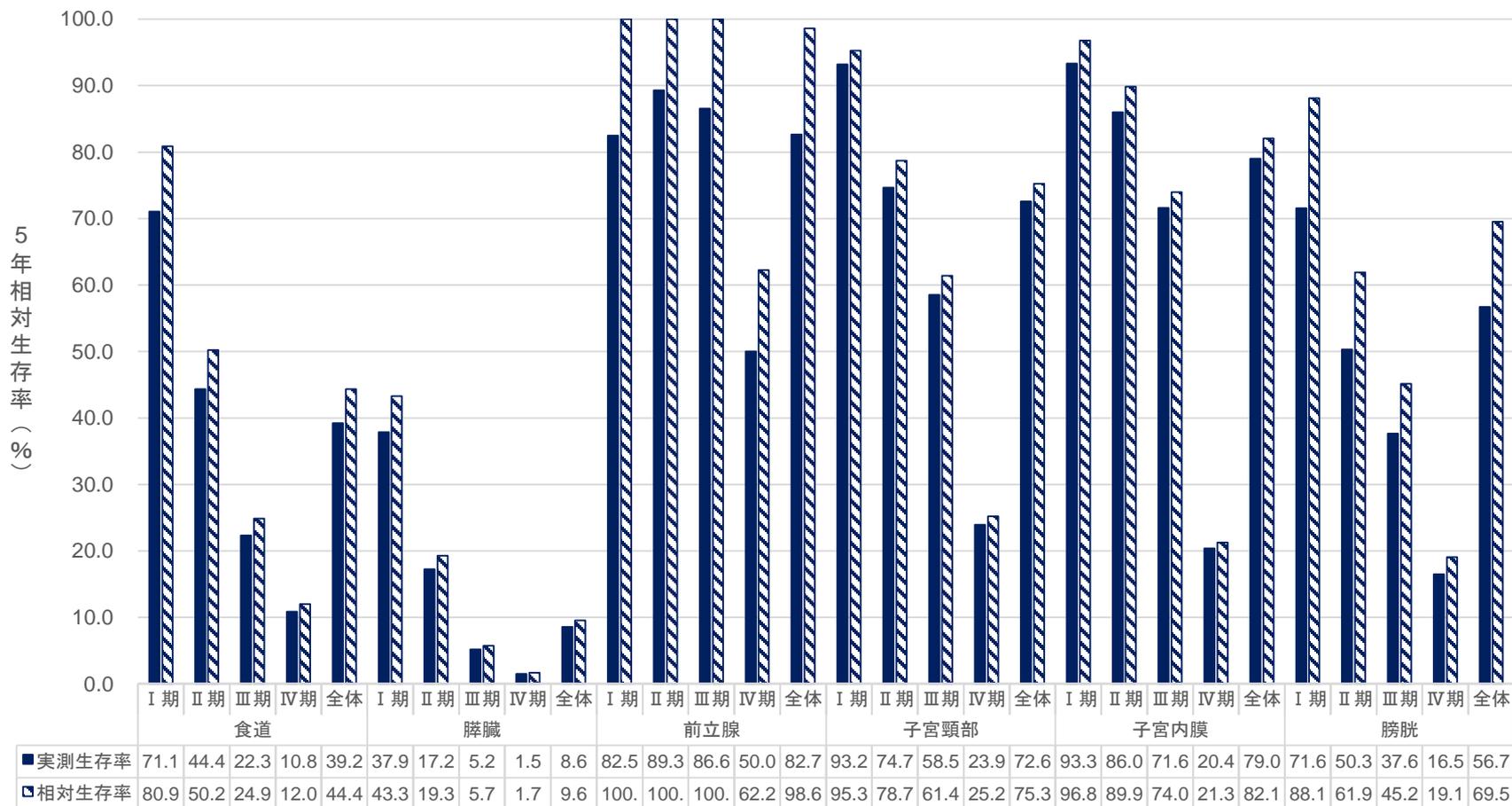
## 主要5部位の病期(がん種)別生存率





# がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2009-10年5年生存率集計

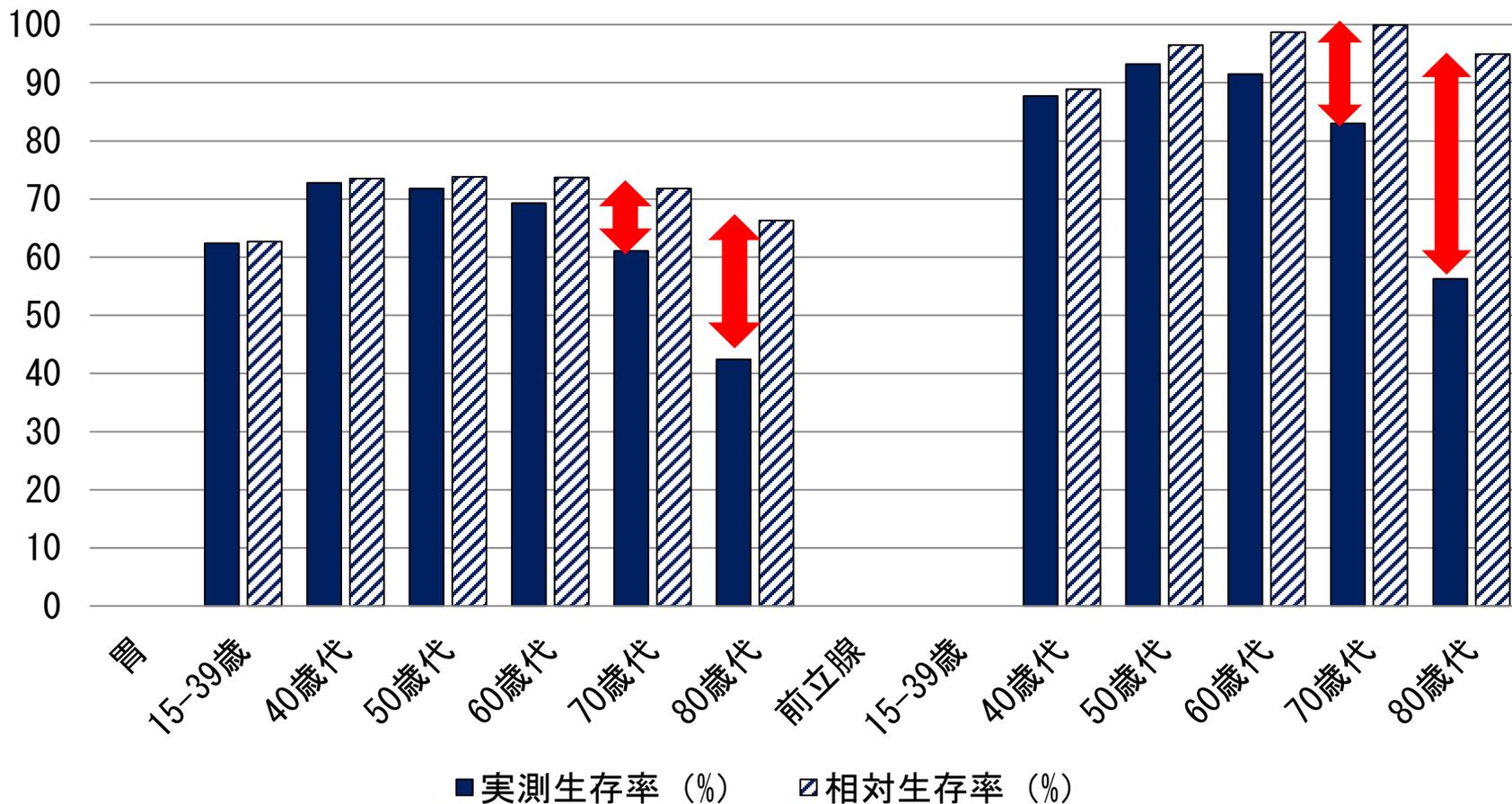
## その他部位の病期(がん種)別生存率



■実測生存率 ▨相対生存率

# がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2009-10年5年生存率集計

## 年齢別実測生存率と相対生存率



## がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 生存率集計

### 2012年3年生存率集計の特徴

- ◆ いわゆる難治性がんの診断・治療法の開発が課題
- ◆ **5年生存率**より早い段階での生存率の情報を提供
- ◆ **喉頭、胆嚢、腎、腎盂尿管**について新たに集計
  - 喉頭、腎、腎盂尿管では、I、II期の比較的早期では3年生存率は80～90%
  - 胆嚢は、膵臓とともに難治性がんであるが、根治切除可能なI、II期では約91%、約77%と比較的良好であった
- ◆ 今後、難治性がんへの議論が高まり、対策が進むことを期待

### 2009-10年5年生存率集計の特徴

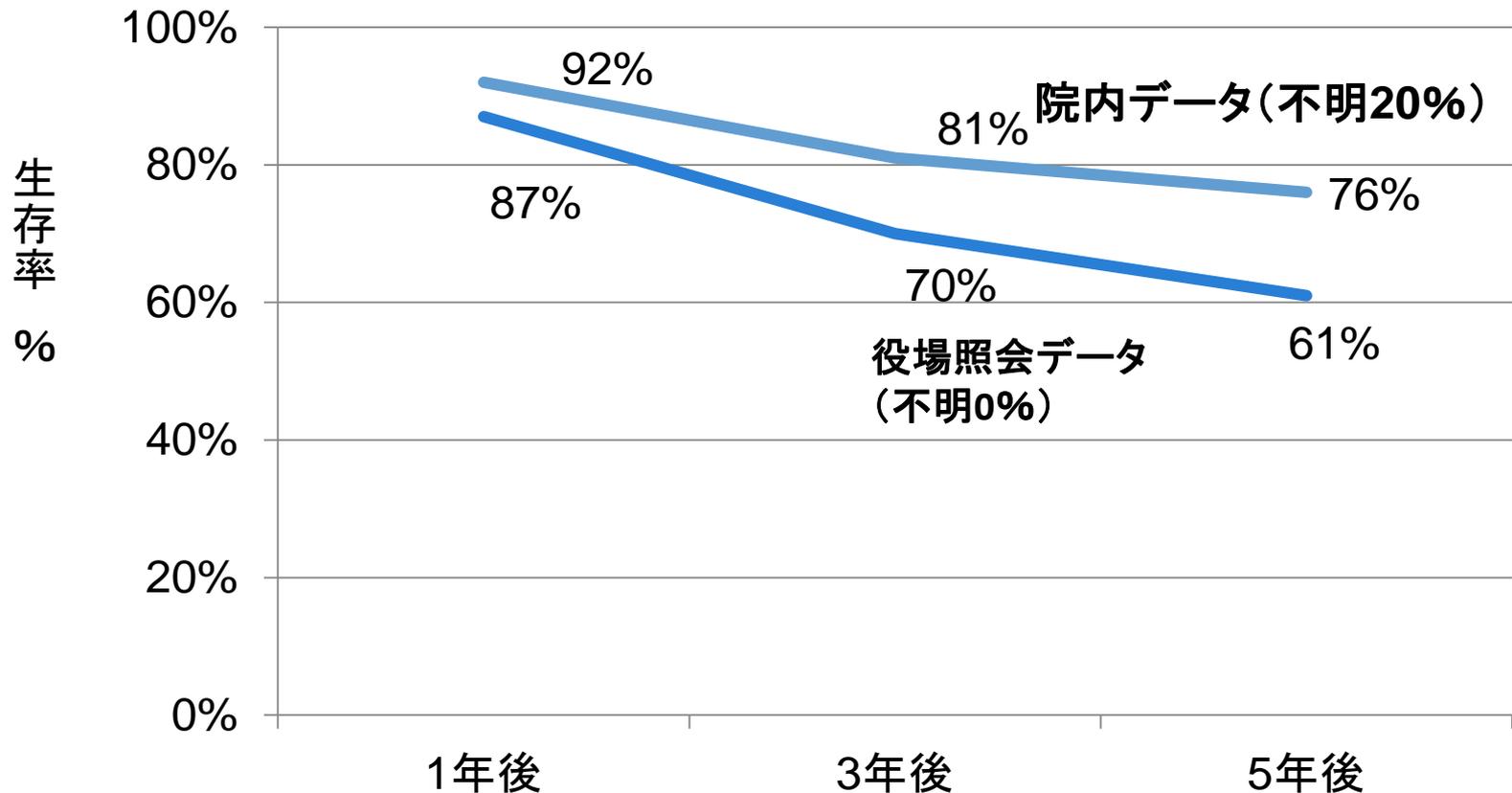
- ◆ 2009-10年診断例を合算した**約57万件**のデータを解析
- ◆ 部位によって、治療の難しさなどから生存率には差がある
- ◆ 例えば、前立腺では、I～III期とも相対生存率は100%と良好



# がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2009-10年5年生存率集計 結果 (都道府県・施設別)

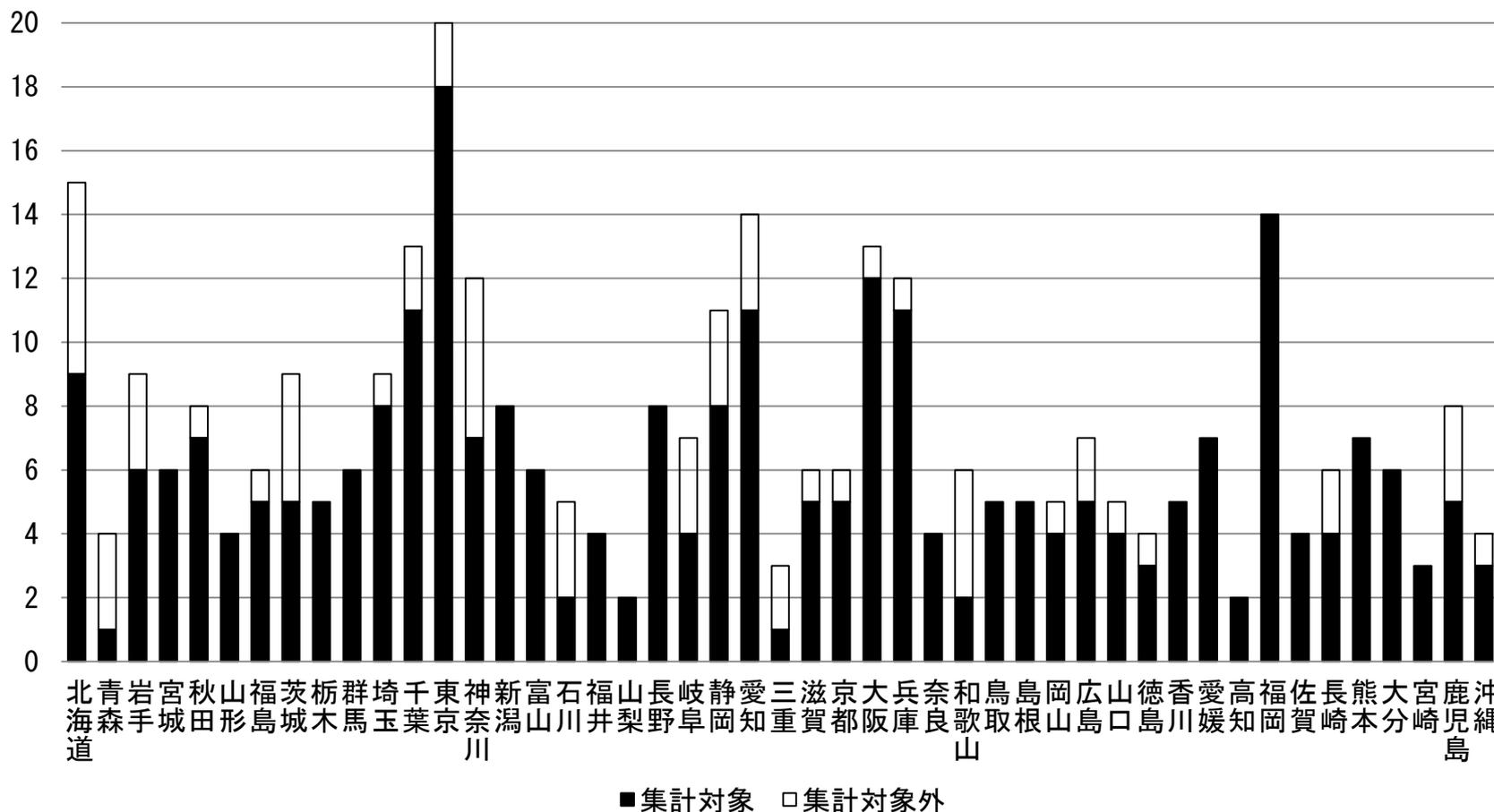
---

# 1 施設のデータから (本集計データではない)、 生存状況把握割合が低いと生存率は過大評価 時間が経つにつれて、差が大きくなる





# がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2009-10年5年生存率集計 都道府県別参加施設(338施設)と集計対象施設(277施設)



## がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2009-10年5年生存率集計

### 施設別生存率

- 各施設の**医療の質(データの質を含め)**を見直すきっかけ
- がん登録部会での検討を踏まえ、病期別に生存率算出
- 生存率が**施設の治療の良し悪しを示すわけではない**  
(医療以外の要素も影響)
- 施設別にみると集計対象例が少なくなり**生存率の推定値は不安定**
  
- **患者背景の差**が大きく影響  
⇒参考資料として性、年齢等を提示  
だが、それ以外の患者背景(併存疾患の有無やその程度等)不明

**施設の生存率が、直ちに施設の治療成績を示すわけではありません。  
各施設がこれら数値とともに、自施設での情報を加味して、  
提供した医療の振り返りを行なうことが重要。  
必ず施設のコメントをご確認ください!!**

## がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2009-10年5年生存率集計 都道府県別・施設別生存率のまとめ

- ◆各施設の医療の質を見直すきっかけに
- ◆直ちに都道府県・施設の治療成績を示すわけではない
- ◆2009年、2010年の2カ年分のデータを合算し、ある程度の対象数を確保した上で、都道府県・施設の病期別生存率を集計しかし、
- ◆患者背景の差(年齢、治療方法、併存疾患、全身状態等)が生存率には大きく影響
  - ⇒都道府県・施設の特徴(高齢者・基礎疾患のある患者を主に診療している等)を合わせて理解する必要
- ◆都道府県によって、集計対象施設には偏りがある

都道府県・施設のコメントを必ずご覧ください!!

## がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2012年3年生存率集計 2009-10年5年生存率集計

### ●集計結果のポイント

- 3年生存率は、2012年診断例286施設約34万件のデータを解析
- 新たに集計した喉頭、胆嚢、腎、腎盂尿管の生存率をみると、喉頭、腎、腎盂尿管では、I、II期の比較的早期では3年相対生存率は80～90%以上と比較的良好であった。  
胆嚢は、膵臓とともに難治性がんと言われるが、I期91.1%、II期77.4%と根治切除可能と考えられる比較的早期では良好であった。
- 5年生存率は、2009年、2010年の2カ年分を合算し、約57万件のデータを用いて集計
- 部位によって、治療の難しさなどから生存率には差がある  
例えば、前立腺ではI～III期とも相対生存率は100%



## がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2012年3年生存率集計 2009-10年5年生存率集計

### がんと診断された時、多くの人にとって生存率は気がかりな情報

- がんの生存率は、特定の期間にがんと診断された方の生存率です。
- この中には高齢の方もいれば、重篤な併存疾患等を持っている方も含まれています。
- 最新のがん治療の情報を提供するものではありません。
- がん生存率は、あくまでもこれまでにがんと診断された方々の経験から、がん患者さんの予後を考える一つの資料です。
- ご自身の健康状態をより把握されている医師らに相談することが、今後の治療を決めていくなかで大切だと思われれます。

## 謝辞

拠点病院等院内がん登録は、

- 全国のがん診療連携拠点病院等、院内がん登録をされているがん診療施設の協力のもと、実施されています
- 院内がん登録の集計・公表方針等については、都道府県拠点病院がん登録部会医師委員・県登録部会委員の先生方やがん登録実務者のご協力のもと、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会がん登録部会で検討して、報告書を作成しております。
- 皆様のご協力に心よりお礼申し上げます。